

資源環境技術総合研究所の技術研修等の受講について(企画書)

平成 10 年 6 月 4 日

大気部 ○○ ○○

水質部 ○○ ○○

企画連絡室

1. 目的

現在の衛公研の調査研究は、有害物質などの濃度測定といった化学分析作業がその殆どをしめており、得られた測定データに解析を施して発表することが殆どであった。こういった調査研究も大切ではあるが、近年では地球の温暖化や地球規模での環境汚染、環境リスクアセスメントといったさらにグローバルで統合的な観点での問題が提起されており、衛公研としてもこれらの時代を先取りした先進的な技術研究を進めていく必要がある。

また、環境アセスメント制度も強化され、山口県においても環境アセスメント室が新設されている。これまで衛公研においては、調査測定等による貢献はしてきているが、アセスメントとしての貢献度は低かったように思われる。これからは、アセスメントに関する行政需要は多くなると思われるので、これに欠かせないシミュレーション技術を提供できるようにしておくことが必要である。そこで、

(1) ライフサイクルアセスメント(LCA)の計算ソフトウェアである(NIRE-LCA)の技術研修を受けると共にその配布を受ける。

(2) 地球温暖化抑制のために、使用エネルギー転換も一つの方法であるが、これに関するシミュレーション技術の現状と将来展望についての情報を得る。

2. 計画

(1) 研修について

ア LCA技術の指導及びプログラムの配布を受ける。

近年、環境問題に対する認識の高まりから、様々な角度からの環境保護への取り組みが行われている。その一つとして、各種工業製品の製造に必要な原材料の採掘からその製品に至るライフサイクルでの排出物を算定し、環境への影響を評価する方法がライフサイクルアセスメント(LCA)として内外で検討され注目されている。LCAでは従来の経済性、利便性等の観点からでなく、地球環境に与える負荷の程度により製品の評価を行うことを目的としている。

日本でのLCA研修及びコンピュータプログラムの配布は資源環境技術総合研究所(資源総研)で行われており、このプログラムは技術指導という形態でのみ利用できる。プログラムの利用を申請し、研修を受け、配布を受けることになっている。また、研修終了後には報告書を提出するようにもなっている。したがって、衛公研からコンピュータソフト等に詳しい者を資源総研に派遣し、LCA技術の習得及びプログラムの配布を受ける。

(添付参考資料)LCAに関する資料及び研修申請書等。

イ 第 14 回研究講演会「エネルギー開発におけるコンピュータ・シミュレーション」の聴講。

別添講演会プログラムの冒頭に述べられているように、地球温暖化抑制策の一つである使用エネルギーの転換に関係する最新技術のなかでのシミュレーションに関するものである。これからますますこのようなエネルギー転換技術の実用化が進むものと思われる。したがって、この講演会を聴講し、理論の修得と情報の収集をする。

(2) 開催日時

受講は、ア、イで日程が合わない場合は、アのみとする。

ア 開催者の方で指定するが、イの日程に合わすよう交渉する。

イ 平成 10 年 7 月 3 日、13 時～17 時

(3) 開催場所

ア つくば市資源環境技術総合研究所

イ 東京都港区石垣記念ホール

(4) 研修等受講希望者

所属 大気部 水質部
氏名 ○○ ○○ ○○ ○○

(5) 経費

旅費(つくば市及び東京都、2泊3日) 約・,000 円×2人=・,000 円

3. 成果

山口県におけるエネルギー消費、湖沼の富栄養化、酸性雨、水質汚濁、大気汚染等のデータを収集し、LCAプログラムによる計算及び結果をまとめることにより、山口県としてLCAの基礎データを構築する。このデータは最新の環境技術情報の一つとして内外に提供できる。

また、シミュレーションについてはこれからの課題であるが、LCA共に研修後所内において「研修報告」を行うことはもちろん研究会等によりこの技術の修得をさらに深めると共に、具体的施策として行政にどのように貢献できるかを明らかにしていく。さらにこのような組織を定着させ、環境行政施策の科学的裏付け手法の一つとして利用されるよう組織的な技術にしていく。